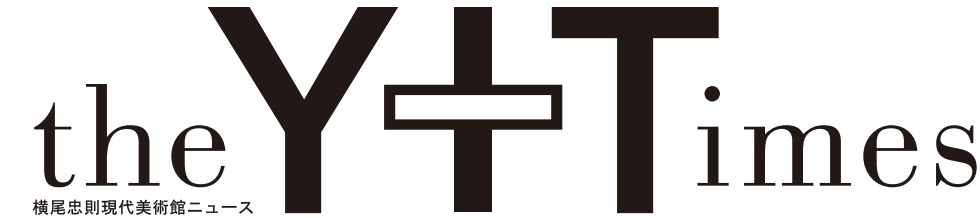


横尾さんが 第27回高松宮殿下記念世界文化賞を受賞!



YOKOO TADANORI MUSEUM OF CONTEMPORARY ART NEWS LETTER

Special Report 1
横尾さんが
第27回世界文化賞を受賞!
Special Report 2
開館3周年記念展
横尾忠則 続・Y字路

- Event Report**
- 01 講演会「横尾忠則ーカット&ベストが織り成すコラージュの万華鏡」
 - 02 YYワークショップ
 - 03 イブニング・ギャラリーツアー & ガーデンパル
 - 04 インターンシップ & 博物館実習

Preview
開館3周年記念展 横尾忠則 幻花幻想幻画譚

Editor's Choice
アーカイブルーム

Information
次回展開連イベント/兵庫県立美術館 展覧会スケジュール



授賞式典

さる10月21日(水)、第27回高松宮殿下記念世界文化賞の授賞式典に行ってきました! 同賞は1988年、公益財団法人日本美術協会によって創設されたもので、ノーベル賞に文学賞以外の芸術文化部門がないため、それらを補完することが意図されています。歴代の受賞者は、まさに戦後文化を牽引して来た巨匠たちのオンパレードで、本年は絵画部門の横尾さんを筆頭に、彫刻部門はヴォルフガング・ライブさん、建築部門はドミニク・ペローさん、音楽部門は内田光子さん(体調不良のため残念ながら欠席)、演劇・映像部門はシルヴィ・ギエムさんがそれぞれ受賞されました。式典では各国の最高顧問によるスピーチに引き続き、まず最初に横尾さんが常陸宮妃殿下よりメダルを授与さ



表紙: 受賞者3人
(建築部門ドミニク・ペローさん、演劇・映像部門シルヴィ・ギエムさん、彫刻部門ヴォルフガング・ライブさん。)と記念撮影
(音楽部門の内田光子さんは欠席) ©日本美術協会 / 産経新聞

山本淳夫 | 本館学芸課長

Editor's Choice

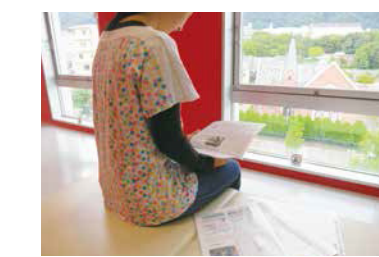
アーカイブルーム

横尾忠則現代美術館では横尾さんの元で保管されていた資料を受け入れ、順次整理・公開していますが、アーカイブルームにある資料はそれだけではありません。ご存知の通り、横尾さんは現在進行形で大活躍中です。新聞や雑誌、テレビなど様々な媒体で次々と発表される著作やインタビュー、紹介記事を当館独自に収集・保存し、アーカイブルームの展示でも度々紹介しているのです。先日は横尾さんが受賞された第27回高松宮殿下記念世界文化賞関連資料として、受賞が伝えられた新聞各紙や受賞記者発表会の当日資料を収集しました。100年後200年後を見据え、貴重な資料・情報を保存・整理し公開していくことはアーカイブの重要な役割です。

奥野雅子 | 当館学芸員補助



世界文化賞受賞記者発表会資料一式
(横尾忠則現代美術館蔵)
出展者でなければ入手できない貴重な資料です



開館コーナーでは、「週刊読書人」など
横尾さん新聞連載資料も閲覧いただけます

開館時間
10:00-18:00
(金・土曜日は10:00-20:00)
※入場は閉館の30分前まで

休館日
月曜日(祝日の場合は翌日)
年末年始 メンテナンス休館

facebook
twitter

Y+Tメールマガジン登録
www.ytmoca.jp/news/index.html

〒657-0837 兵庫県神戸市灘区原田通3-8-30
Tel: 078-855-5607(総合案内) Fax: 078-806-3888
www.ytmoca.jp

横尾忠則現代美術館ニュース Vol.11
2015年12月10日発行
編集・発行: 横尾忠則現代美術館 印刷: 株式会社 大伸社

Information

次回展開連イベント

開館3周年記念展
横尾忠則 幻花幻想幻画譚
2015年12月12日(土)~2016年3月27日(日)
休館日: 月曜日
※ただし、3月21日(月・祝)は開館、3月22日(火)は休館
年末年始・メンテナンス休館【12月31日(木)~1月15日(金)】

観覧料: 一般 700 (560) 円、大学生 550 (440) 円、
高校生・65歳以上 350 (280) 円、中学生以下無料
※()内は20名以上の団体および前売(高校生・65歳以上は前売なし)料金
※障がいのある方とその介護の方(1名)は各当日料金の半額(65歳以上除く)

鼎談
瀬戸内寂聴 × 浅田彰 × 横尾忠則
講師: 瀬戸内寂聴(作家)、浅田彰(批評家)、横尾忠則(美術家)
日時: 12月12日(土) 14:00~15:30
会場: 当館オープンスタジオ
定員: 100席(事前申込み制)
※聴講無料、要展覧会チケット

ワークショップ 幻花de連歌
日時: 2月13日(土) 13:30~16:00
会場: 当館オープンスタジオ
定員: 15名
参加費: 無料
対象: 小学生以上(大人のみの参加も可)
※要申込み、応募者多数の場合は抽選
※小学生は保護者の付き添いが必要
※高校生以上は要展覧会チケット

各イベントの詳細は
HPなどご確認ください

イブニング・キュレーターズ・トーク
講師: 当館学芸員
日時: 1月23日(土)、3月5日(土)
いずれも18:00~18:45
会場: 当館オープンスタジオ
※聴講無料、要展覧会チケット
※当日は20時まで「ぼんだかふえ」を営業します

兵庫県立美術館 | 展覧会スケジュール

【特別展】
ジョルジ・モランディ-終わらなき変奏-
12月8日(火)~2016年2月14日(日)

【県美プレミアム】
小企画 奇想の版画家 谷中安規展 蔵出し! M氏コレクション
特集 版画 大行進!
11月21日(土)~2016年3月6日(日)

※兵庫県立美術館の特別展または県美プレミアムのチケット半券ご提示で、
当館の企画展を団体割引料金でご覧いただけます(詳細はHPなどご確認ください)

編集後記
本号では横尾さんの高松宮殿下記念世界文化賞受賞という嬉しいニュースをお届けすることができました。素晴らしい賞の受賞と同時に横尾さんの代表作のY字路展を開催することができて当館としてもとても光栄に思います。さて、次号は横尾さんの挿絵作品を紹介する展覧会「幻花幻想幻画譚」を特集します。インクで描かれた繊密な作品が出品されます。乞うご期待! (藤原)



授賞式後のカクテルレセプションで、
小説家の瀬戸内寂聴さん、映画監督の山田洋次さんと
©日本美術協会 / 産経新聞

受賞記念アーティストトーク

授賞式の翌々日、批評家の浅田彰さんと横尾さんによる対談形式のアーティストトークが行われました。浅田さんは、今回の受賞を「横尾忠則という特異な存在を美術史の中にきちんと位置づける好機」と語り、横尾さんについて「無意識の底が抜けていて、自らが出会ったあたりあらゆるものを受容し、創作活動に変えていく」と評しました。最近、難聴に悩まされているという横尾さんでしたが、浅田さんの明快な語り口に促されるように、自らの制作について語り、「これからの僕の作品

は僕の肉体が決める。肉体の声に従って制作していきたい」と述べました。話題は、当館や豊島横尾館の活動、横尾さんの新著『言葉と離れる』などに及び、とくに、浅田さんによる三島由紀夫さんと横尾さんとの生き方や創作活動における比較論には、聴講者の誰もが興味深く耳を傾けていました。

林 優 | 本館学芸員



左: 浅田彰さんとの対談 ©日本美術協会 / 産経新聞
右: トーク終了後、冒頭挨拶の高階秀爾さん、
対談相手の浅田彰さんと記念撮影
©日本美術協会 / 産経新聞

ゲート・インスティトゥートのレーマン総裁来館

10月25日、ドイツのゲート・インスティトゥート総裁、クラウス＝ディーター・レーマンさんが来館されました。レーマンさんは高松宮殿下記念世界文化賞の国際顧問でもあり、今回はその授賞式にあわせての来日です。「Y字路」から広がるヨコオワールドを満喫された様子で、「色、テーマ、様式、どこをとっても常識の枠にはまらないアーティスト」、「常に刺激を受けて、常に新しいものを作っていくこうとする姿勢がすばらしい」と横尾さんを評しました。また、横尾さんが授賞式において「50歳で歳をとるのをやめた」と語ったことを引いて、「だからこそ若い作品

が生まれていて、横尾さん自身が楽しんでることが絵を通して伝わってくる。それがあらゆる世代の人々に響いているのだと思う」と感想を述べられました。最後に、横尾さんに向けて「目玉廊下」で手を振るポーズをとってくださいました。

平林 恵 | 本館学芸員





「Y字路」とはY字形に交わった三叉路のこと。身近にありながら取り立てて気にとめることのない存在。そんなY字路のある風景を横尾さんは15年間描き続け、その数はいまや150点を超えました。本展では、2006年以降の新作に焦点を当て、進化し続ける横尾芸術のいまを約70点の「Y字路」を通して紹介しています。

会場の入口にある《暗夜光路N市・I》は、2000年に描かれた最初の「Y字路」。幼少期の記憶の風景を辿る旅のなかで、無くなってしまった思い出の場所を撮影し、偶然発見した主題が、作家のライフワークに発展するとはいえ、誰が予想できたでしょうか。

写真から始まったY字路は、いつしか多様なモチーフの引用や合成によって、現実と空想、過去・現在・未来が同居する舞台へと変容します。そして、2006年に画集「横尾忠則Y字路」が出版される頃にはY字路の探究は終わったかに見えました。しかし、この後もなく、Y字路は他の主題や様式との出会いを受け入れることで復活します。温泉の紀行文のための「温泉」シリーズ、全国各地のY字路を描いた公開制作作品に見られるように合流と分岐を繰り返しながら、過去の作品をも絡めとりながら大きな流れとなっていく。多様な手法の作品が絡み合っって不思議な一体感を醸し出す2階展示室

は、森羅万象を横尾流に変換してキャンパスに定着させるヨコオワールドが堪能できる空間になっています。

2階の小さな展示室は、壁も床もベンチもY字路の写真で埋め尽くされています。これらは横尾さん自身が2年にわたって撮影した東京のY字路。その中には、絵画の素材として使われ

ものを見るように引き出す」絵画の力に対して「見えるものを見えないようにする」実験だったと語っています。また、屋外の風景に見えていたY字路がいつのまにか静物画と融合するなど、随所に実験とユーモアが盛り込まれています。

暗い展示室の最後には、暗闇から光を放しているようにオーロラの連作が並びます。飛行機の窓から偶然見た感動的な光景をモチーフに描かれたこれらの作品は、現実的なY字路を離れ、オーロラと融け合っって幻想的な風景を作り出しています。写真をもとにした写実的なY字路の先に広がっている風景は、ますます謎に満ちています。そして、このシリーズのひとつ《如何に生きるか》のなかには、こう書かれています。

開館3周年記念展 横尾忠則 続・Y字路

ているものもあります。Y字路の写真は、メディアを横断し反復と変容を繰り返す横尾式「Y字路」の出発点なのです。

3階では、横尾さん独特の色づかいはいは影を潜め、暗い空間に誘われます。黒い壁面に掛けられた21点の黒いY字路の絵画は「黒いY字路」と「夜」の連作。目を凝らすと、灯りの消えた夜のY字路がぼんやり見えてきます。画面の奥に見えない行き先を探す体験は、夜の闇に放り出されたような不安をもたらします。「黒いY字路」について横尾さんは、「見えない

「I'm not what to paint. It's not how to paint. It's how to live」(何を描くかではない。如何に描くかではない。如何に生きるかだ) 横尾さんに影響を与えた画家ジョルジョ・デ・キリコの作品に対してルネ・マグリットが発したとされる言葉を引いたこの3行こそ、横尾さんの画家としての信念といえるでしょう。そして、横尾さんが筆をとる限りY字路は続いていくのです。

平林 恵 | 本館学芸員

講演会 「横尾忠則 カット&ペーストが織り成すコラージュの万華鏡」

2015年6月20日(土) 14:00~15:30
当館オープンスタジオ(1F)
講師：河本真理(日本女子大学教授)



01

Event Report

横尾忠則展 カット&ペースト(4月18日[土]~7月20日[月・祝])は、横尾さんの作品における「コラージュ」的な「考え方」に迫る試みでした。そこで関連イベントとして、図録の巻頭原稿をご寄稿いただいた河本真理先生をお招きし、講演会を開催しました。河本先生は著書『切断の時代 20世紀におけるコラージュの美学と歴史』(ブリュッケ、2007年)でサントリー学芸賞を受賞、また雑誌『ユリイカ』の横尾さん特集号(青土社、2012年11月号)にも「コラージュを切り開く 横尾忠則の(Operation)と解剖学」を寄稿されています。横尾作品における「コラージュ性」を語れる、まさに第一人者だといえるでしょう。こうしたアカデミックな講演会は、なかなか聴衆が集まりにくいのではないかと危惧していたのですが、ふたを開けてみれば用意した椅子はほぼ満席に。河本先生が作品から読み解いた膨大な情報量がこれでもか、と開示されます。バロック絵画や20世紀美術の巨匠など、横尾さんが興味を抱いた美術作品が次から次へと登場し、まさに横尾流「空想美術館」を体験するかのような、充実したひと時となりました。

山本淳夫 | 本館学芸課長



1. 予想以上にたくさんの聴講者が、河本先生大人気です
2. iPad(画像の部分拡大も思いついた)を使ったとても分かりやすいレクチャーでした



YYワークショップ

2015年8月27日(木) 13:30~16:00
当館オープンスタジオ(1F)、展示室

「続・Y字路」展にちなんで、身近な素材を使って世界に一つだけのY字路をつくるワークショップを行いました。横尾さんのライフワークにもなっているY字路。しかし、参加者の多くはY字路がどのような場面なのか、なかなか想像できる人が少ないようでした。そこでまず、「Y字路ってなんだろう?」というところからスタート! 身近で見ているのに意外に気がつかないY字路に皆さん興味津々です。次に展示室でワークシートを参考にしながら作品を鑑賞。学芸員の案内で、横尾さんの独特な世界観に触れます。その後、みんなで見つけたものを確認しあいました。Y字路のイメージを共有したところで、空き容器や紙粘土、リボンや布・包装紙等、たくさんの素材を使って、建物、人物、動物、植物などY字路にあったものを自分なりに考えてつくります。はじめは迷いながら作っていた人も、他の人が一つ二つと設置していくにつれてどんどんアイデアが浮かび、最後にはカッコいいY字路が完成しました。

藤原晴日 | 本館学芸員補助



1. 素材がいっぱい! どれにしようかな?
2. 完成作品と一緒に記念撮影!
3. この作品には何かあるかな? みんなでよく見てみよう!



3

毎週金曜日と土曜日は夜間開館日。夕方の美術館は人の流れも落ち着き、静かに作品と向き合えるのが魅力です。ところが、夏真っ盛りのある週末の夕方、いつもは静かなこの時間帯の美術館に人が集まり始めました。この日、美術館の中ではギャラリーツアー、外の庭では美術館併設のぼんだかふえが主催するお祭り「ガーデンバル」が開催されました。ギャラリーツアーの参加者は約40名。展覧会担当学芸員と一緒にいくつかの作品を巡ります。Y字路のバリエーションの豊かさや、個々の作品に仕掛けられたトリック、制作のエピソードなど、作品を前にして話はあちこちへ飛んでいきます。たっぷり45分間のツアー終了後は、庭でグラス片手にのんびりくつろぎます。ヨーヨーすくいや木工細工のワークショップもあり、気分は夏祭りです。さらにツアー参加者には、カフェからデザートサービスのサービスも。お客さんと仕事終わりのスタッフとが混じってアートの話に花が咲く様子も見られました。ギャラリーツアーは9月5日にも開催され、熱心な横尾ファンの方が集まりました。今後も夜間開館日に向けたイベントを企画しています。お楽しみに。

平林 恵 | 本館学芸員

イブニング・ギャラリーツアー + ぼんだかふえガーデンバル

2015年8月15日(土) 18:00~

03

Event Report



1. いろいろなY字路に釘付けです

インターンシップ & 博物館実習



04

Event Report

横尾忠則現代美術館では昨年度に引き続き、神戸芸術工科大学のインターンシップと武蔵野美術大学及び甲南大学の博物館実習を受け入れました。今夏はなんと当館事務所スタッフよりも多い総勢17名の参加です。次企画展の準備やワークショップ事業、事務所作業など様々な業務に関わっていただきました。アーカイブルームでの資料調査・整理作業ではカメラ、パソコンの操作や資料保存のための細かな注意など覚えることがたくさんありましたが、皆さん熱心にメモを取り、注意深く活動していました。また、期間中に資料保存業務の一環として、学芸スタッフとともにアーカイブルームや倉庫、作品用エレベーターまで館内各所の清掃・整備をしました。資料の取扱いやデータ入力などのデスクワーク、お客様対応、大掃除と美術館の仕事が多岐にわたることを体感できたのではないのでしょうか。当館に蓄積された資料調査・整理作業の成果は、直近では企画展「幻花幻想幻画譚」の展示で広くお客様へ還元されます。参加学生さんたちにとっても実りある夏であったことを願っています。

奥野雅子 | 当館学芸員補助



1. 収蔵庫前室にて、清掃作業中
2. アーカイブルームにて、実習生、インターン生、学芸スタッフと一緒に資料調査・整理作業を行いました

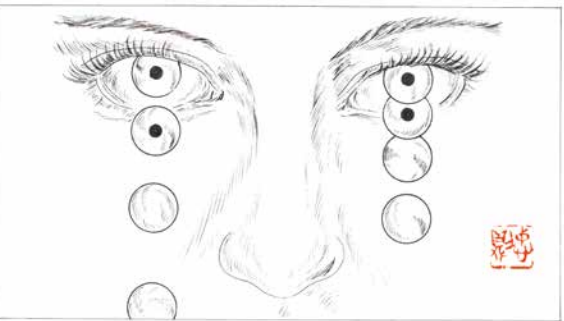
Preview

開館3周年記念展 横尾忠則 幻花幻想幻画譚

2015年12月12日(土)~2016年3月27日(日)

1974-75年に新聞連載された瀬戸内晴美(寂聴)さんによる長篇時代小説「幻花」。この連載のために横尾さんが描いた挿絵は、ユニークで謎めいた図像と、精緻な細密描写が、私たちに鮮烈なインパクトを与える作品です。横尾さんが自らの「イラストレーションの総決算」と述べるとおり、一つひとつの画面に高い緊張感と強度を備えたこれらの挿絵は、横尾さんの仕事の中でも特筆すべき存在であるといえるでしょう。横尾さんは、空町後期を舞台とするこの小説に対して、ストーリーとは無関係な現代的なモチーフや作者である瀬戸内さん自身の肖像を挿入したり、数回にわたって画面をアニメーションのように徐々に変化させる仕掛けを施したりと、自由な遊び心を随所に散りばめながら、イメージを自在に展開していきました。時には、瀬戸内さんの原稿よりも挿絵の方が先に描かれることもあり、本来、文章に従属するはずの「挿絵」のあり方を越えたこれらの挿絵は、それ自身が独立した一つの世界を形作っているといっても過言ではありません。本展では、横尾さんのグラフィック・ワークの最高傑作の一つである「幻花」挿絵の貴重な原画全371点を一堂に展示し、その魅力に迫ります。私たちのイマジネーションを刺激する濃密で幻惑的な世界を、ぜひご堪能ください。

林 優 | 本館学芸員



瀬戸内晴美「幻花」挿絵 虚空(八) | 1974-75年 | 作家蔵

Topics

横尾忠則 展覧会情報

このほかにも、横尾さんの作品を楽しめる展覧会が国内外で多数開催されます。詳細は各展覧会HP等でご確認ください。

■ワールド・ゴーズ・ポップ テート・モダン/ロンドン
2015年9月17日~2016年1月24日

1960-70年代に巻き起こったポップ・アート・ムーブメントに対する世界各地の芸術家たちの反応を検証する展覧会。

(KISS KISS KISS) 1964年



資料も充実したカッコいい図録です

■インターナショナル・ポップ ダラス美術館
2015年10月11日~2016年1月17日

フィラデルフィア美術館
2016年2月24日~5月15日

■横尾忠則 迷宮感応術 箱根彫刻の森美術館/神奈川
2016年3月19日~8月28日
横尾さんが私淑する様々な芸術家へのオマージュをテーマにした展覧会。

■ポップ・アート、私の恋人(仮称) ラ・メゾン・ダイユール/イヴェルドン・レ・バン(スイス)
2016年9月17日~2017年4月30日

横尾作品と美術館コレクションによる展覧会。ポスターが多数出品されます。

■横尾忠則:49年後 アルベルト・ベンダ/ニューヨーク
2015年11月12日~12月19日

《お嬢》(1966年)の40年後を描いた反復作品など最新作を展示。



《メドレー競技》2015年 フリードマン・ベンダ・ギャラリー蔵